

総合的な評価

●令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により非常に厳しい一年であった中、発熱患者の診察やPCR検査の実施、陽性患者受入れのための病床改修など、両病院とも公立病院としての責務を果たしている点は評価するとともに、感謝の意を表す。

●経営面而言えば、医療制限などの様々な感染対策や、全国的な問題であった受診控えも加わり、両病院の経営に及ぼした影響は大きい。

●結果として約1億2,300万円の赤字決算となり長期貸付による支援を行うこととなったが、コロナ禍による経営への影響は全国で生じている状況で、病院機構の経営努力の不足によるものではない。

●平成30年度に外科の常勤医師が不在となり、府中市民病院の収益悪化が懸念されていたが、内科や整形外科の収益も増加傾向にあるとともにコロナ禍にあっても入院収益が過去2年を上回り、コロナ禍による影響がなければ収支はほぼ均衡していたものと考えられる。

●医療提供体制の点而言えば、府中市民病院では常勤医師の新たな着任などにより令和3年度は独法化以来最も多い常勤医師数となる見込みで、府中北市民病院とともに着実に医療提供体制の整備が図られつつある。

●府中北市民病院は地域包括ケアシステム構築に精力的に取り組んでおり、その一環としてのサ高住も着実に入居者を増やし、地域の介護事業所等と連携した医療・介護人材の育成・確保についても市の上下地域包括ケア拠点施設構想に寄与するもので、市としても積極的に協力していく。

●市民から選ばれる病院づくりの取組としては、看護部にプロジェクトマネージャーを招聘するなど組織改革や患者満足度調査の実施などに積極的に取り組んでおり、今後の患者満足度の向上と接遇の改善に期待する。

●ICT技術を活用した新たな診療形態として両病院でオンライン診療を開始したが、コロナ後の新たなガイドラインなどの国の動きに注視するとともに、高齢化が進む中山間地における新たな医療提供の方策などについても引き続き検討、実施されたい。

業務の実績に関する評価

住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

【実績・成果】

- ・救急科への常勤医師配置による救急車受入件数が目標を大きく上回っている（府中市民）
- ・協和・久佐地区での巡回診療が継続されている（府中市民）
- ・婦人科外来・検診件数が目標値を大きく上回っている（府中市民）
- ・令和3年度には、独法化以来最も多い常勤医師数となるとともに府中北市民病院で眼科の診療が始まるなど医療提供体制の充実が図られた。
- ・サ高住の入居者増と環境整備（北市民）

【課題】

- ・訓練や備蓄を初めとした災害対策が引き続き課題として残っている。市も危機管理面を初めとした必要なサポートを行っていく。
- ・両病院の将来像と今後の地域医療連携の方向性については、新型コロナウイルス感染症への様々な対応に追われ検討が予定どおり進められない現状があり遅延はやむを得ないが、市を初めとした関係機関と連携・検討し、令和3年度中のできるだけ早い時期に成案をまとめられたい。

業務運営の改善及び効率化に関する事項

【実績・成果】

- ・懸案であった患者満足度調査の実施や新たな接遇向上の取組の実施

【課題】

- ・市民が欲している情報の発信が足りない。現在の市広報を利用した情報発信の掲載頻度や枠の拡大といった充実に向けた支援は市も積極的に行うが、病院機構としても市民が欲している情報や病院のアピールポイントについての積極的な情報発信に努められたい。

財務内容の改善に関する事項・その他業務運営に関する重要事項・予算、収支計画及び資金計画

【実績・成果】

- ・経常収支比率が中期計画の目標値に達していないが、令和2年度はコロナ禍による経営面での影響が大きい中、経常収支比率目標を達成した月が4ヶ月あったという点や、府中市民病院が前々・前年度を上回る入院収益を上げている点については評価する。

【課題】

- ・新型コロナウイルス感染症による今後の影響が不透明である中、市としてもコロナ禍による影響を考慮しながら必要な財政支援は行うが、病院機構としても計画的な投資に努めるなど自立した病院経営に向け努められたい。